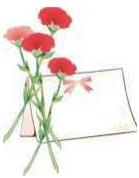


九条北小学校 校長室だより

N0.9 令和5年5月15日



4月28日(木)～5月10日(火)の家庭訪問
へのご協力ありがとうございました。



★「体力テスト」に取り組んでいます！★

5月15日(月)・16日(火)【予備日17日(水)】と、全学年で「体力テスト」に取り組みます。



★「弱い自分が世界の幅を広げる」～成功だけでなく、不調も、失敗も、すべては水泳がくれた豊かな思い出です！～★

*児童朝会では、次のような話をしました。

水泳の荻野公介(おぎの こうすけ)さんの話をします。知っている人もあると思いますが、荻野さんは、17歳でロンドン五輪に初出場し、男子400m個人メドレーで銅メダルを獲得、2016年のリオデジャネイロ五輪で同種目で金メダルを、男子200m個人メドレーで銀メダルを獲得。2021年の東京五輪をもって現役引退しました。



荻野さんが、水泳を始めたのは生後6か月のとき、近くのスイミングスクールに入ったのがきっかけだそうです。小学校低学年ごろまでは、「選手クラス」に上がって、年上のお兄さんたちと一緒にいられることが誇らしくて通っていたそうです。成長するにつれて、しだいに水泳が生活の中心になっていったそうです。朝から練習し、学校が終わったらまた練習するという生活が365日続けていたそうです。

水泳漬けの日々は、つらいと思うことはあったようです。タイムが伸び悩むときは、「毎日こんなにがんばっているのになぜだろう」と落ち込んだり、「練習しんどいな。みんなは放課後遊べていいな。」と、思ったりしたそうです。でも、中学2年の時、ひざの手術で泳げないとき、練習している仲間を見て「いいなあ、みんな泳げて」と思う自分がいて、「ないものねだり」だと気づき、水泳をやめたいとは思わなくなつたそうです。

荻野さん自身は、どちらかといえば、ネガティブ(後ろ向き)に考えがちで、100点満点のテストで、96点取っても「なぜ4点をとりこぼしたんだろう」と思い詰めるタイプだったそうです。この考え方で、苦しくなった時もあったようです。一時期、不調が続き、休養した時期があるそうです。その時は、今までしてこなかったことを経験することで、不調から抜け出することができたそうです。

そして、再び、水泳の練習を再開し、金メダル獲得まで到達しました。

荻野さんは、「一度決めたことを最後までやり抜く」は、唯一好きな点と言っています。泳ぎ続けたからこそ、成功や様々な経験をすることができた。人生を豊かにしてきたすべての思い出は、水泳がくれたものと言っています。また、荻野さんにとって、失敗や不調を経験することで自分の世界が広がったので、成功だけでなく、不調も、失敗も、すべてが豊かな思い出と言っています。